

水性サフロチン乳剤「SES」

水性サフロチン乳剤「SES」は幅広い殺虫スペクトラムを持ち、魚毒性の低いプロペタンホスをも有効成分とする水性乳剤です。水性乳剤であることから従来の乳剤に比べ低臭性であり、引火性が無く、薬剤処理面の汚損が少ない等の特徴を兼ね備えた殺虫剤です。

成分・分量

- プロペタンホス3.0%
- その他 4成分

性状

- 微黄色～淡黄褐色澄明なやや粘性のある液。
- 希釈した際に白濁しません。

特徴

① 優れた効果

プロペタンホスはゴキブリ、イエバエ、マダニをはじめとする広範囲の害虫に対して高い致死効果を発揮します。

② 低臭性・低刺激性

有機溶剤を含まない水性の乳剤ですので、乳剤に比べ溶剤に起因する刺激臭が抑えられています。

③ 非危険物

水性乳剤で消防法の危険物に該当しないので、保管や運搬が容易です。



水性サフロチン乳剤「SES」

【用法・用量】

目的に応じて水で希釈し、一般に害虫の生息または発生場所に対して使用する。

ハエ・蚊成虫

直接噴霧：通常、10倍液を成虫に向けて適宜噴霧する。この際、過剰な使用を避ける。
残留噴霧：1m²につき10倍液50mLをハエや蚊のよく停まる天井や壁等の全面に噴霧する。

ハエ幼虫（ウジ）

1m²につき200倍液2Lを幼虫の発生場所に噴霧する。ゴミや堆肥等へは、1m²につき400倍液4Lを噴霧し、薬液を内部に浸透させる。

蚊幼虫（ボウフラ）

発生場所の水量1m³につき本剤の30～50mL（有効成分0.9～1.5ppm）を、適宜水で希釈して噴霧する。

ゴキブリ（油虫）、マダニ

1m²につき10倍液50mLを、ゴキブリ、マダニの生息場所あるいは徘徊場所に塗布又は噴霧する。

ノミ、トコジラミ、イエダニ

1m²につき10倍液50mLを噴霧する。

室内塵性ダニ類

生息場所の表面1m²につき10倍液50mLを噴霧する。噴霧後は通気を良くする。

【安全性及び環境影響情報】

安全性

急性毒性

（有効成分 プロペタンホスについての情報）

ラット経口：LD50 ♂98.8 ♀94.2 (mg/kg)

ラット経皮：LD50 ♂1282 ♀564 (mg/kg)

ラット吸入：LC50 ♂3020 ♀3300 (mg/m³)

環境影響情報

魚毒性

（有効成分 プロペタンホスについての情報）

コイ TLm 7.64ppm (48hr)

【包装】 18L×1 4L×1 500ml×12

【効力】

フタトゲチマダニ若虫に対する準実地試験

試験場所：山梨県韮崎市の山中

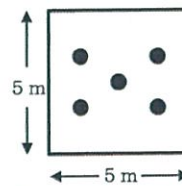
供試ダニ：フタトゲチマダニ若虫 1群8～10匹

試験方法：準実地効力試験

供試ダニをガラス製容器に入れ、試験エリア（5×5m）内の草むら地表面の所定位置に配置した。（5か所、図参照）「水性サフロチン乳剤「SES」」の10倍希釈液を50mL/m²の割合で噴霧処理した。噴霧機器には全自動噴霧機を用いた。処理30分後にガラス製容器を回収し、3日後まで供試ダニの苦死状況を観察した。

供試ダニ	希釈倍率	30分後平均苦死虫率(%)	1日後平均苦死虫率(%)	最終平均致死率(%)
水性サフロチン乳剤「SES」	10倍	4.2	100	100
対照区(ブランク)		0	0	0

試験実施機関：一般財団法人日本環境衛生センター



●：供試ダニの配置場所（配置図）

結果：十分な効果を示した。

（参考）供試薬剤の魚類および草花類への影響

試験エリア内の所定位置3か所に魚類（キンギョ）を、1か所に草花類（ニチニチソウ）を配置した。キンギョは樹脂製ビーカーに水1.5Lとキンギョ3匹を入れ供試した。供試薬剤の噴霧処理30分後に回収し、キンギョは2日後まで、ニチニチソウは7日後まで状況を観察した。結果：キンギョに影響は見られなかった。ニチニチソウに対して花の変色（色抜け）が見られたが、枯れは見られなかった。

【屋外で使用する際の注意】

環境を汚染防止のため、過度の使用はお控えください。また養殖池、井戸、地下水などを汚染する恐れのある場所、水棲生物などに被害を及ぼす恐れのある場所では使用しないでください。植物によっては、薬剤の影響がでる場合がありますので、事前に確認し、必要に応じて養生等の対策を講じてください。

SES 住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社

〒541-0045

大阪府大阪市中央区道修町2-2-8

TEL 06-6223-7537

FAX 06-6223-7538

取り扱い代理店